

経歴

1995年(平成7年) 信州大学医学部卒業

母校の大学付属病院の研修医として勤務。外来と開放の病棟とで神経症、うつ病、統合失調症などの診療を経験し、精神療法の基本的なトレーニングを受ける。

1997年(平成9年) 5月 東京都立松沢病院 精神科

大学病院での研修終了と同時に松沢病院での勤務を開始。精神科救急、各精神疾患の急性期治療、精神科リハビリ、慢性期病棟などの診療経験を積む。

精神科救急病棟では措置入院および医療保護入院患者の急性期治療に関わる。疾患は統合失調症、うつ病、薬物中毒など多岐にわたったが、特に急性一過性の精神病性障害(精神病症状が長く持続せず改善する病態)を診る機会が多かった。また、行政医療として外国人の措置入院患者を多く診る経験を持った。

慢性期の病棟では、退院困難者を多く担当。大半が統合失調症の慢性期で、触法歴の多い(重犯罪の犯歴があるケースが全体の1割を超えた)男性患者の病棟を経験。薬物療法に抵抗性で治療困難な病態についてよく知ることとなった。同様に、重い精神症状が固定した女性の慢性期病棟も担当。

精神科リハビリの病棟では、病状が安定して退院できるように見えても長い入院生活のうちに病院外の生活が困難になるケースを多く担当し、地域関係機関との連携など経験した。

2000年末に精神保健指定医を取得。

次に勤務する病院の休日・夜間精神科救急の場で鑑定業務を勤めることになった。

その後、開業まで一貫して都立の機関(この期間中に順次独立行政法人に移行)に精神科医として勤務。都立病院は東京都の島しょ医療にも協力しているため、診療および講演などの普及啓発を目的とした伊豆諸島への出張機会も度々持った。

2001年(平成13年) 4月 東京都立府中病院(現多摩総合医療センター) 神経科

精神科単科病院に近い松沢病院での経験を積んだ後、総合病院での勤務を希望して異動。総合病院の中の精神科として、リエゾン診療(各診療科の病棟に精神科医

が出向いて精神疾患の対応にあたること)、合併症医療(一般病棟で対応困難な精神疾患を持つ身体疾患患者の対応)の経験を積む。特に産婦人科と精神科が連携して治療を行える施設は都内でも数少ないため、精神疾患を持つ患者の周産期医療に関わる機会を多く持った。

また、都立病院精神科の日常業務の一環として、夜間・休日の精神科救急に関わる。精神障害が疑われて警察に通報されたケースにおける緊急措置診察、入院決定、病棟入室、入室後の症状管理までの一連の処置を行う。あらゆる精神疾患は急性期には興奮を呈することが多く、精神科救急における診断名も様々であった。概ね鎮静を要することが多く、事故のリスクも高いため医師・看護師とも多人数で処置にあたった。

病棟では精神科救急ほか様々なケースの入院治療にあたった。しかし、急性期の症状がある程度落ち着くとその後の診療を地域の診療機関にお願いすることも多く、長く継続的に経過を診ることは難しい状況もあった。三次救急を担う病院でもあったため、自殺企図のため救命救急ケースとなる患者の診察機会も多かった。

一方で、院内の女性外来の立ち上げにも関わり、診察室の設計など行う。プライバシーの保たれる構造で同性の医師に診て欲しいという女性患者のニーズのあることに気づく。この頃から、診療場面で認知症高齢者と関わるが増え、その方面のトレーニングの必要を感じ始めた。

2005年(平成19年)9月に現地に留学歴のある先輩医師のアテンドにてスウェーデンの高齢者グループホーム、大学病院の認知症病棟などを見学する機会を得る。

2006年(平成18年)4月 東京都立老人医療センター(現東京都健康長寿医療センター) 精神科

老年精神医学の研鑽を積むことを希望して異動。認知症高齢者、高齢期のうつ病などの治療に携わる。もの忘れ外来を担当し、認知症性疾患の鑑別診断や介護指導などの経験を積む。抗認知症薬の使用が始まった時期で、その効用や限界について知ることになる。

2008年(平成20年)7月 東京都立精神保健福祉センター

2010年(平成22年)4月 東京都立中部総合精神保健福祉センター

行政職の経験を希望して上記 2 か所でその経験を積む。精神保健活動業務として、都内の各所で精神疾患の対応についての講演、行政からの相談ケースへの対応、高齢者班活動(地域からの要請に基づき、精神疾患や認知症のため在宅生活が困難となっている高齢者宅への訪問を行う)などにあたった。この間、前職場の老人医療センターにてもの忘れ外来の担当を週 1 回続けた。

2012 年(平成 24 年) 7 月 東京都立老人医療センター(現東京都健康長寿医療センター) 精神科

老年精神医学の知見をより深めることを希望し、前職場に再異動。引き続き認知症性疾患を中心に高齢者の精神医療の経験を積む。画像診断が進歩してきた時期であり、診断精度が向上することによる恩恵、その限界についても知ることとなる。

2016 年(平成 28 年) 4 月 東京都立駒込病院 精神科 (のちに精神腫瘍科)

緩和領域のメンタルヘルスの勉強を目的として、がんセンターである駒込病院に異動。感染症のセンターでもあるため、HIV など慢性の感染症を持つ患者の精神疾患治療にも携わる。精神科病棟のない病院であり、リエゾンと外来で上記の経験を積んだ。

2020 年初頭からは新型コロナウイルス感染症の最前線に立つ病院の 1 つとなり、そのリエゾン診療にも多くあたる。とりわけ高齢者施設のクラスターが発生した折には認知症の感染者の対応に多く携わった。流行のピーク時には病院全体で医師のマンパワーが不足するため、精神科医としてだけでなく新型コロナウイルス感染症の直接診療に携わる機会も持った。

2023 年(令和 5 年) 3 月末

これまでの病院における経験を一区切りとし、これよりは働く人々やこれから社会人となる若い世代などの間でも広く認められる ころの不調和に焦点を絞り診療に向き合いたく思い、クリニックを開業することを決めた。

2023 年(令和 5 年) 6 月 「千代田ころのクリニック」 開業